

シンポジウム

「中留萌地域の農業・農村の展望と地域の担い手」開催要領

開催趣旨

平成23年12月農林水産省から「我が国の食と農林魚業の再生のための基本方針・行動計画」が示され、その中の最も重要な戦略である「持続可能で力強い農業の実現」では徹底した話し合いを通じ、今後2年間程度で、人と農地の問題を抱える全ての市町村、集落で人・農地プラン「地域農業マスタープラン」の策定が求められ、同時に「新規就農の増大」のための多くの支援策も提案されております。

このような背景のもと、条件の厳しい地域の一つである中留萌地域の現状を踏まえて、地元産品の加工販売、新品種普及への産官学連携の取り組みなど先進的事例を素材に農業・農村振興を検討します。さらに、全道的に担い手農家の離農・高齢化が急激に進行している状況下でも成功している事例を参考に新規就農確保の方策を検討するシンポジウムを開催します。

- 主催 NPO 法人グリーンテクノバンク、初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会
- 共催 初山別村 遠別町 羽幌町
- 後援 JAオロロン、日本気象協会北海道支社
- 開催日時 平成24年2月9日(木) 午後1時30分～4時30分
- 開催場所 初山別村自然交流センター
- 参集範囲 初山別村・遠別町・羽幌町の農業者及び関係者、関係機関・団体、一般
- 参加料 無料

シンポジウム次第

開会挨拶 初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会会長
北海道大学農学研究院 教授 長南史男 氏
初山別村長 宮本憲幸 氏

シンポジウムの趣旨説明

グリーンテクノバンク 事務局長 折登一隆

話題提供

1. 中留萌地域の農業振興の課題と展望

1) 中留萌地域農業の現状と今後の農業展望

JA オロロン農業振興部 部長 菅田亨弘 氏

2) もち米の加工・販売による地域振興

もち米の里ふうれん特産館 代表取締役 堀江 英一 氏

3) 超強力小麦「ゆめちから」の特性と産官学連携研究

北海道農業研究センター 上席研究員 田引 正 氏

2. 北海道における担い手確保の現状と中留萌の展望

1) 新規就農支援システム・支援施策の事例紹介

～地域への新規参入者受入を中心として～

(財)北海道農業開発公社 北海道農業担い手育成センター

担い手本部長 青山 俊夫 氏

2) 過疎地における地域農業の担い手像

北海道地域農業研究所 特別参与 黒澤不二男 氏

3) 初山別村における担い手育成の現状

初山別村経済課農林畜産係 係長 寺崎 廣輝 氏

3. 総合討論

閉会挨拶 グリーンテクノバンク理事 水島俊一

////////////////////////////////////

【申し込み】 2月3日(金)までに、①氏名(代表者の場合は人数も)、
②市町村名、③職業(所属機関、職名)、④連絡先(Eメール、電話番号)
を明記して Eメール(gtbbh@almond.ocn.ne.jp)またはファクシミリで
(011-210-4477)に申し込みください。

////////////////////////////////////